

NEWS

多世代交流拠点施設について考える / 富まちミーティング【多世代交流拠点施設編②】を開催します！

和泉市では、令和2年3月に策定した「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」に基づき、人権文化センターや青少年センターなどを集約し、現・和泉第一団地敷地に、多世代交流拠点施設を整備する計画を進めています。

富秋中学校区等まちづくり検討会議*では、当拠点施設の計画にみなさんの意見を反映していくため、和泉市と協力して、多世代交流拠点施設について考える「富まちミーティング**【多世代交流拠点施設編②】」を開催します。今回は、施設でどのような活動を行って「多世代」が「交流」するための“しかけ”をつくれるか、検討したいと思います。ぜひご参加ください。

*「富秋中学校区等まちづくり検討会議」とは、「まちづくり構想（地域案）」の実現をはじめ、将来にわたって住み続けたい魅力あるまちづくりを推進するために、地域の住民の方などにより設立された組織です。

**「富まちミーティング」とは、構想実現に向けて、皆さんと情報共有や意見交換を行う場です。

日時・場所

7月4日（日）10時～
ゆう・ゆうプラザ（人権文化センター）
1F 大会議室（伯太町六丁目1番20号）



参加できる方・申込方法

参加資格：和泉市内在住又は在勤(学)の方
申込：不要
※ただし先着30名程度（感染症対策）

第2回のテーマ・内容

多世代交流拠点施設での活動の展開イメージなど、「多世代」が「交流」するための“しかけ”について話し合います。

「和泉市富秋中学校区等まちづくり構想」は、このQRコードを読み取りダウンロードすればご覧いただけます。



富まちミーティング【多世代交流拠点施設編①】では「どんな場になってほしいか」「どうすれば人が集まるか」の2つをテーマに、参加者のみなさんとさまざまなことを話し合いました！

1 班

■屋外にあるとよい空間

○遊び場・広場

- ・自由な遊び場
- ・火、水、木、土など自然素材で遊べる
- ・ボール遊びができる場…柵が必要
- ・広場（例：浜寺公園（堺）、とんぼ池公園（岸和田））

○自然・緑

- ・桜並木の遊歩道
- ・フラワーストリートなど花が一杯ある場所 →花は地域で管理

○その他必要な空間

- ・駐車場があること

■施設内にあるとよい空間

○どの年代も使える空間

- ・みんなが利用したいと思える空間（運動室、スタジオ、工房、和室、娯楽室、更衣室、シャワー室）
- ・年代別に活動ができる場所

○色々な使い方ができる可変性を持った空間

- ・移動式で多目的に使える大集会室
- ・スライドできる多目的室

○子ども・若者が集まる空間

- ・勉強できる自習室・図書館
- ・若者の運動関係（例：てんとう虫パーク）

■どのような場になるとよいか／できるとよい使い方

○子育てママが来やすい場に

- ・子育てママの悩み相談ができる場
- +授乳室、赤ちゃん・子どもが遊べる屋内空間（キッズスペース）

○自然に交流が生まれる場に

- ・ゆったりお茶が吞めて自然に集まれる
- ・高齢者が自然に集まるような活動が行われている場（子ども食堂、おとな食堂）

○地域の人々がチャレンジ・起業できる場に

- ・シェアキッチンやチャレンジショップなど若い人がチャレンジできるように
- ・手作りの販売、カフェ・軽食などができるように

○地域活動の拠点となる場に

- ・活動団体の事務局が置けるように

○災害時にも使える場に

- ・防災機能

■運営の仕方・その他

- ・常に見守る・包み込んでくれる「人」がいること（職員・カウンセラーなど）
- ・利用するためのルールは少なく（あれもこれも禁止はNG）
- ・施設名はやわらかい、利用しやすいネーミングに



新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等を踏まえ、国や府から緊急事態宣言等が発出された場合、富まちミーティング【多世代交流拠点施設編②】の開催は延期とさせていただきます。

問合せ
連絡先

和泉市人権文化センター（総務部人権・男女参画室）
【メール】jinbun-c@city.osaka-izumi.lg.jp 【電話】0725-44-0030



■ 普段の休日の過ごし方やまちの風景から考える、あるとよい場所

○ 施設内

- ・ 図書室で過ごすことが多い
⇒ ゆっくりできるソファやコーナーがほしい
- ・ 子どもや若者は自宅でゲームなどに興じることが多い
⇒ みんなで家庭用ゲームができる大画面があるとよい
⇒ e スポーツの大会を行うなど、全世代が楽しめ、目玉になる場所に
- ・ 運動プログラムやスポーツジムは、参加者が固定されていて参加しにくい
⇒ ワンフロアで子どもからお年寄りまで気軽に軽い運動ができるとよい
ヨガ、ウォーキングマシン、ストレッチ、子どもがばたばた走り回るなど
- ・ 人権文化センターのイベントや集会、人権相談などに参加
⇒ 施設のベースとして機能維持は必要
⇒ 今使っている団体含め、様々な団体が出店するマルシェ、それに相談コーナーが付随
- ・ 色々な講座が開かれても、有料だったり登録が必要だったりすると二の足を踏む
⇒ もっと気軽に参加できるイベントや活動があったほうがよい

○ 屋外

- ・ 公園でキャッチボール
- ・ 青少年センターでどろんこボランティア（子どもと遊ぶ）
⇒ 青少年センターにはないバスケットゴールやテニスコートなど、スポーツできる設備
⇒ 子どもが思い切り遊べる、こけても痛くない柔らかい舗装
⇒ 火おこしを体験するなど、公園ではできないことができる場所
- ・ ゲートボールをしている横で寂しそうにベンチに座るお年寄りがいる
⇒ お年寄りがもっと気軽に人とおしゃべりや交流のできる場や仕掛け

■ どのような場になるとよいか／できるとよい使い方

○ ここにきたら何か面白いものに出会える場に

- ・ 普通の貸し館とはちがう、常に面白いことが行われている場所
- ・ 情報発信が頻繁に行われていて、何が行われているかがわかる

○ 活動をすることと参加することのハードルが低い、気軽な場に

- ・ ルールが少なく、何でも気軽にできる場所
- ・ 無料で参加でき、気軽にふらっと立ち寄れる

○ 常に進化している場に

- ・ 色々なことが行われることで、「核」（拠点、集まり）ができてくる
- ・ 特定の団体・人が固定的に使うのではなく、様々な団体・人が入れ替わり入ってきて、新しい使い方や活動が生まれてくる場所

○ 和泉市全体から使ってもらえる施設に

- ・ 地域だけの施設ではなく、市全体から様々な団体に利用され、様々な催しが行われてほしい
- ・ 大学生、外国人留学生などが参加する異国の文化が体験できるような活動も
- ・ シティプラザとの連携・交流で活動に幅を

■ 運営の仕方・その他

- ・ イベントを無料にするためには NPO や学生などが運営のサポートに入るとよいのでは

■ 普段の休日の過ごし方から考える、あるとよい場所

○ 施設内

- ・ 近所のお店やショッピングモール、ボーリング場など
⇒ 何らかの目的性がある施設
- ・ 小栗の湯にあるほのぼのの食堂、和泉第一団地の集会所（すこやかリビング）など
⇒ 気軽にお茶を飲みに行けるような団らん・憩いの場
- ・ 市民文化ホールの代わりとなるような劇場
- ・ 体育館（幸小学校の代わりとなる場所）
- ・ 人権文化センターで盆踊り保存会の活動や、識字の活動、歴史を学ぶ勉強会など

○ 屋外

- ・ ダンス少年や、スケボーなどしてる子もいるが、適した場所がない
⇒ 子ども達の活動・遊びの場があるとよい
- ・ 「●●映え」スポット（イルミネーション、桜の木など）
- ・ 屋外シアターなどのイベント

■ どのような場になるとよいか／できるとよい使い方

○ 行けば誰かが居る、誰かに会える場に

- ・ 昔は青少年センターが子ども達の居場所だった。新しい施設も居場所となるように
- ・ 今は入り口に人がいないため入りづらいので、施設に受付係を置くとよい

○ 地域の中でも目立つ場に

- ・ 今の人権文化センター、青少年センターは暗いイメージなので、外観は明るい雰囲気
- ・ 現在の人権文化センター駐車場に大型バスが止まり、団体行動の集合場所となっているように、新たな施設も誰もが利用しやすく広く認知されるとよい
- ・ 間口を広くとる

○ 誰でも気軽に利用できる場に

- ・ 現状は個人利用だと昼食を取るスペースがないので、小さい子連れ・家族で施設を予約していなくても気軽に来館が可能な施設
- ・ 誰でも利用できる屋上芝生広場
- ・ 現在の人権文化センターが、デイサービス利用者の散歩ルートとなっているように、日常的に来てもらえる場所

○ 今ある機能を継承、強化できる場に

- ・ 今は「人権」という看板があることで相談や連絡が来るが、「多世代交流拠点施設」になっても、引き続き相談しやすい雰囲気づくりが必要
- ・ 受験生やテスト前の学生、資格試験勉強を行う成人などの自習室利用は継続したい
- ・ 人権団体の活動場所、交流、シゲキ、支援、育成の場
- ・ 資料等の展示スペースを、気軽に見てもらえるような工夫

■ 運営の仕方・その他

- ・ 未成年でも借りられる部屋、スペースもあるなど、緩やかなルールにできるとよいのでは



■ 全体のまとめ

各班で出た意見のまとめとして、大きく下記の3点が多世代交流拠点施設をつくる上での共通したポイントであることを共有しました。

- ・ 今までまちになかった訪れたい新たな機能の導入（子ども達の新たな遊び場、eスポーツ可能な大画面、写真映えするスポットなど）
- ・ 気軽な会話や多世代での交流が自然に生まれる空間づくり（移動式・可変性のある集会室、新しいものに出会える場、地域の憩いの場など）
- ・ 多くの人に気軽に利用してもらえるための運営、しくみづくり（常に見守る人がいる体制、NPOや学生による支援、緩やかなルール設定など）



各班での意見を踏まえながら、第2回では、多世代交流拠点施設での活動の展開イメージなど、「多世代」が「交流」するための“しかけ”をテーマに議論しますので、ぜひご参加ください！